

指導資料



鹿児島県総合教育センター

教育相談 第129号

- 小・中・高等学校対象 -

平成23年4月発行

児童生徒の意欲を引き出す教育相談

新年度を迎えた4月は、児童生徒が「さあ、頑張るぞ!」と、一年で最も意欲に満ちあふれている時期である。この時期に教師が、児童生徒をやる気にさせる働き掛けを行うことでさらなる意欲の高まりが期待できる。

そこで本稿では、教師の働き掛けの一つである児童生徒の意欲を引き出す教育相談について述べる。

1 教育相談の基本的な姿勢

児童生徒は、自分の悩みや不安を相談することによって楽な気分になり、新たな意欲がわくようになる。

児童生徒の話をきく教師の姿勢



児童生徒が、単に聞いてほしいと思って、話しているような場合

- 聞く側も肩の力を抜き、話が深刻になりすぎないように聞く。
- 話がとりとめもなく、長くなったとしても、不快感を表に出したり、制止したりせずに聞く。



児童生徒が、何か分かってほしくて、話しているような場合

- 目の前の児童生徒と場の雰囲気、自分の全神経を集中させながら聴く。
- 自分の中で、児童生徒の話の「思い」まで掘り下げながら聴く。
- 児童生徒が今置かれている立場を理解しようと努めながら聴く。
- 児童生徒の本音を引き出すという展開を念頭に置きながら聴く。

単に聞いてほしい場合は、話すだけでも問題が解決されることがある。しかし、深刻な場合は、解決の見通しが立つまでじっくり話さなければならない。このような児童生徒の思いを理解し、教師は内容に応じてきく姿勢に気を配る必要がある。

その際、教師は説得するという姿勢ではなく、児童生徒が話しやすくなるように配慮し、自分の意思で多くを語ることができるように心掛けることが大切である。

2 意欲を引き出す働き掛け

意欲を引き出すためには、次のように児童生徒に働き掛けることが大切である。

(1) 将来に向けたよいイメージをもたせる。

「どんなことをやってみたいのか?」、
「どんな自分になりたいのか?」というように、将来の夢や理想的な自分の姿を具体的にもたせることである。「そうしたい」、「こうなりたい」という児童生徒の願いに働き掛けることが重要である。

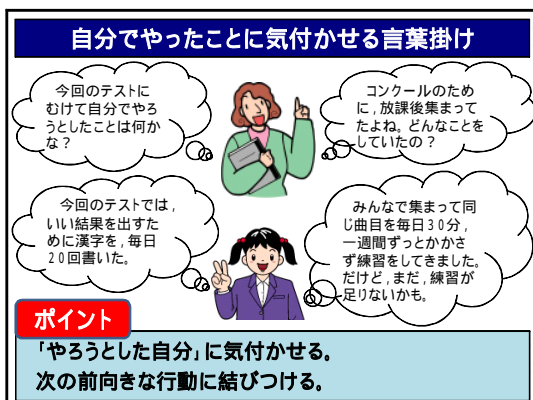
児童生徒自身が、よりよい状態を期待したり、その実現を願ったりすることは、前向きな考え方をもつことにつながり、意欲を高めるきっかけになる。



(2) 自分でやったことに気付かせる。

「どんなことをしたの？」というように、自分でやったことに気付かせることである。取組や努力は一人一人様々であるが、今自分ができていることを見つめさせることが重要である。

「～することはできなかったがここまで取り組んだ」という具体的な取組に気付かせることで、次に何をなすべきか見通しを立てることができる。



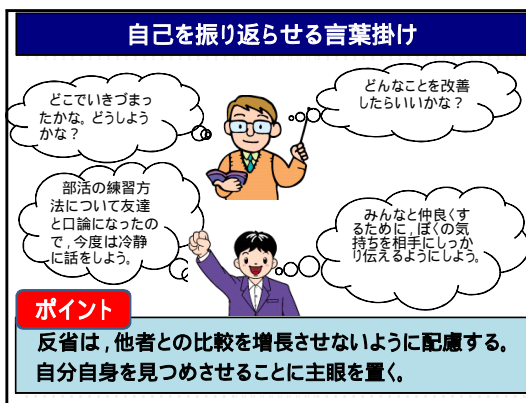
(3) 自己を振り返らせる。

「どんなことを改めたらいいかな？」というように、今までの自分を振り返らせることである。

自己を振り返らせる留意点として、他者との比較による評価やうまくできない行動ばかりを指摘しないことである。意欲を引き出すための振り返りが、逆に劣等感を募らせてしまう。したがって、「できた」、「できなかった」という結

果ではなく、その結果に至るまでの取り組や努力した過程に児童生徒の意識を向けさせることが重要である。

その際、児童生徒に前向きな反省をうながすために、ほめて認めることが大切である。



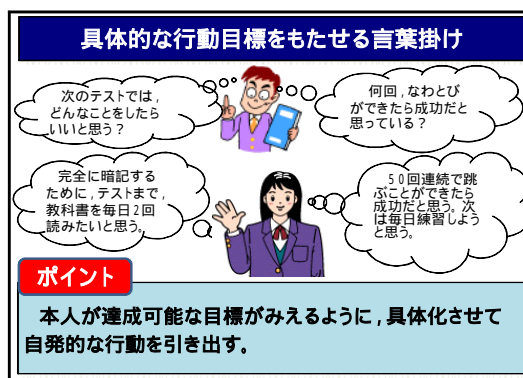
(4) 具体的な行動目標をもたせる。

「次はどんなことができるかな？」、「どうなったら成功だと思う？」というように達成可能である目標を児童生徒に自ら設定させることである。

教師は児童生徒のこれまでの取組状況を十分に把握し、目標を設定させる必要がある。

その目標が児童生徒に適しているかどうかを調整しながら働き掛けることが重要である。

児童生徒は自分自身で掲げた目標を達成することが自信となり、次の意欲につながる。



3 意欲を引き出す具体的な対応

児童生徒の気持ちを十分に受け止め、意欲を引き出す働き掛けについて事例とポイントを示す。

(1) 事例1（中学生Aのケース）

【事例の概要】

Aは、新年度になって、仲のよい友達と離れて、新しい友達がつくれるのかどうか、心配している。

【指導・援助の方針】

- 共感的に受容すること。
- 「～しよう。」と目標をもたせること。

【相談例】

教諭：「元気がないけど...、どうしたのかな。」

A：「仲良しだった友達はみんな他のクラスで自分だけがこのクラスになって...。話をする人がいません...。」

教諭：「そうだったのか、話をする人がいないのか...。」

A：「休み時間も独りぼっちで...。」

教諭：「そうなんだ...。先生に話してくれてありがとう。」

思いを共感的に受容する。
安易に否定したり、児童生徒の思い込みと決め付けたりせず、児童生徒の思いを受け止める。

A：「...みんなは楽しそうにしているみたいで...。」

教諭：「友達がいらないような感じがしているんだね。去年はどうだったの...。」

視点を変えて振り返らせ、「～しよう。」という気持ちを引き出す。
楽しく活動していたときもあったことに気付かせ、前向きな考えに結び付け、意欲を引き出す。

A：「...去年のクラスでは、話せる友達はいました。」

教諭：「そうか。話せる友達がいたんだ。去年は、どんなふうにして話せる友達ができたの...。」

A：「休み時間、何気なく隣の人に話し掛けたら...、できたかな...。」

教諭：「そうだったの。自分から話し掛けたんだね。去年はできたんだね。」

A：「...はい。...多分そうだったと思います。」

教諭：「だったら、去年みたいに隣の人に話し掛けてみたらどうか？」

A：「じゃあ、私から声を掛けてみようかな。」

新年度は環境が変わって、不安を抱えている児童生徒は多い。しかし、児童生徒から教師に相談をもちかけてくる事例はまれである。朝の会、授業中、休み時間、放課後、部活動時などを積極的に利用してかかわりを深める中で悩みに気付くことが大切である。

(2) 事例2（高校生Bのケース）

【事例の概要】

Bは、日ごろから自分の考えをほとんど話さない。春休みの作文の宿題に、新年度の目標として英語の成績を上げたいと書いていた。

【指導・援助の方針】

- 助言しないでじっと待つこと。
- 「～しよう。」と目標をもたせること。

【面談例】

教諭：「Bさん、作文に今年の目標は英語の成績を上げたいと書いていたが、具体的にはどのようにしようと考えているのかな？」

B：「...。」（十分に時間をとる。）

教諭：「何を考えたかな。差し支えなかったら、あなたの考えを教えてください。」

十分に時間をとり自己を振り返らせる。
沈黙は、自分の考えを整理している。自分を振り返らせる時間を確保し、達成可能な目標を引き出す。

B：「...。」（うなずく。）

教諭：「作文には、暗記することが苦手とあったけど、暗記するのはなかなか難しいよね。どうしようか...。」

具体的な行動目標をもたせる。
言葉数の少ない児童生徒には、課題やテスト、日記などから思いを受け止め、具体的な目標をもたせる。

B：「う～ん、時間はかけているのに...。覚えたつもりでも、テストになると結果が出ません...。」

教諭：「そうか、具体的にどうしたらいいか先生と一緒に考えてみようか。」

B：「はい。」

学級でほとんど目立たない児童生徒には、どのような長所が秘められているのだろうかなど、児童生徒一人一人に強い関心をもつことが大切である。

(3) 事例3（小学生Cのケース）

【事例の概要】

Cは、去年、忘れ物が多くよく注意を受けていた。何度も注意を受けていることから学校でやる気を無くしている。

【指導・援助の方針】

- 短所ばかりに集中する意識を取り除くこと。
- やったことをほめること。

【面談例】

C：「先生、練習ノートを忘れました。」

教諭：「そうか、どうしたらいいい。」

短所を指摘しない。
忘れ物をすると注意を受けるとい
うマイナスイメージをもたせない働
き掛けを行う。

C：「...。う～んと、今日は自由帳を代わり
に使おうと思います。それでいいで
すか？」

教諭：「はい。それで代わりになるね。では
今日忘れたのはどうしてなのか思い出
してみようか。」

忘れ物をしたことを振り返らせる。
なぜ、忘れたかという理由を正す
ことも必要であるが、自分の取組や
努力に気付かせることに主眼を置く。

C：「う～んと...、朝、持っていく物を確
認しなかったから...。前の日は、そう
思っているのにいつもできない。」

教諭：「そうか...君も自分では忘れないよう
にしようと思ってるんだね。その心
掛けは偉いと思うよ。それに、宿題プ
リントは忘れずに提出してたよ。」

自分でやったことをほめる。
望む結果ではなくても自分でやる
うとしたことに気付かせる。その中
に努力や取組がある。

C：「はい。宿題プリントは、先生に言わ
れたから大事だと思って連絡帳に書い
ていたので忘れませんでした。...それ
じゃ、明日から忘れ物をしないために
全部連絡帳に書くと思います。」

具体的な行動目標をもたせる。
達成できることを目標として、実
行させる。

児童生徒が自己を振り返り、納得し、新
たな意欲をもって行動できるように働き掛
けることが大切である。

4 保護者との連携

児童生徒の意欲を引き出すためには、保
護者と連携を図りながら指導を進めていく
ことでより高まりが期待できる。

特に、児童生徒、保護者、教師が一堂に
会する家庭訪問や教育相談、三者面談での
働き掛けは、絶好の機会である。そのとき
教師と保護者が共通した考えに基づいて指
導することが大切である。

そのために教師は、日ごろから児童生徒
の抱えている問題だけではなく、頑張った
ことやよい点・伸張したい長所を保護者に
伝えることが必要である。

また、保護者から、児童生徒の家庭での
様子や生活態度などを聞き、保護者の求め
ていることをしっかり受け止めることであ
る。その上で児童生徒に目標をもたせるよ
うほめることが大切である。

年度当初や入学時は、児童生徒が心機一転、
期待に胸膨らます時期であると同時に、不安
や緊張が高まり、学校不適応が生じやすい時
期でもある。教師は、このような児童生徒の
不安定な状況を十分理解する必要がある。

特にこの時期は、意欲を引き出すために児
童生徒の表情や行動をよく観察し、一人一人
の取組や努力の過程を温かく見守っていく
ことが大切である。

【引用・参考文献】

- ・堀井恵著『先生と生徒の心をつなぐNLP理論』 2008 三修社
- ・中野浩彰著『アドラー心理学に学ぶ勇気づけの学級づくり』
1998 明治図書
- ・飯塚俊編『小学校場面別・タイプ別言葉かけ集A～Z』
1998 図書文化

（教育相談課）